

会 議 録

会 議 名	令和6年度第4回小金井市市民協働推進委員会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課		
開 催 日 時	令和7年3月24日(月) 18時30分～19時45分		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎8階 第801会議室		
出 席 委 員	田中敬文 委員長 邦永洋子 副委員長 石黒めぐみ 委員 森田眞希 委員 西田 剛 委員		
欠 席 委 員	高山和久 委員		
事 務 局 員	1 小金井市 コミュニティ文化課長 中川法子 コミュニティ文化課文化推進係長 津端友佳理 コミュニティ文化課文化推進係主任 武田麗子 コミュニティ文化課文化推進係主事 佐原涼太 2 小金井市市民協働支援センター準備室 北脇 市民協働推進員		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	(1) 令和6年度実施協働事業提案制度の報告について (2) 令和7年度実施協働事業提案制度の進捗について (3) その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	1 こがねいデジタル平和資料館 完成発表会チラシ 2-1 小金井市提案型協働事業採択決定通知書(やさいじん) 2-2 小金井市提案型協働事業採択決定通知書(kiki) 3 協働講演会 チラシ及びアンケート結果集計 4 NPO法人派遣研修について 5 町田市地域活動サポートオフィス		

【田中委員長】 皆様、こんばんは。ただいまから令和6年度第4回小金井市市民協働推進委員会を開会いたします。

本日の会議は傍聴可能となっています。傍聴の人は。

【事務局】 大丈夫です。

【田中委員長】 じゃ、まず配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

【事務局】 事務局です。それでは、資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料は、次第を除いて5点となります。資料の1が「こがねいデジタル平和資料館 完成発表会チラシ」、資料2-1が「小金井市提案型協働事業採択決定通知書（やさいじん）」、資料2-2が「小金井市提案型協働事業採択決定通知書（kiki）」、資料3が「協働講演会 チラシ及びアンケート結果集計」、資料4が「NPO法人派遣研修について」、資料5が「町田市地域活動サポートオフィス」、以上になります。お手元にない方、不備等ございましたら、お知らせください。

【田中委員長】 資料、御確認いただけただけでしょうか。

それでは、次第の（1）番に入らせていただきます。令和6年度実施の協働事業提案制度の報告について。

それでは、事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】 事務局です。それでは、令和6年度実施の協働事業提案制度について報告いたします。

資料1を御覧ください。市民提案型協働事業の小金井平和の日・市民イベント実行委員会さんにおける「小金井平和の日」制定10周年記念こがねいデジタル平和資料館の設立についてです。こちらは令和7年3月15日に発表会を実施し、宮地楽器ホールの小ホールで開催されました。約70名の方が御来場いただいたとのことでした。

後ろに映写しておりますが、ここで簡単に、完成したこがねいデジタル平和資料館のホームページを御覧ください。電気を消します。見やすい位置に。

【事務局】 大丈夫ですか。

【事務局】 こちらが実際のホームページを作成していただいたこがねいデジタル平和資料館になります。こちらの中に、提案の内容にもあったように、例えば陸軍技術研究所の内容であったりなど、その他いろいろな資料を掲載しているものとなっております。もう一つ、体験者の方のインタビューもとられているということで、長いので、3分ぐらいだけ、皆さんに見ていただきたいなと思いますので。

(動画再生)

【事務局】 すみません、ちょっとまだ長いので、ここら辺で。

こちらのデジタル平和資料館に関しましては、市のホームページがあると思いますが、こちら、下のほうにスクロールしていただくと、ごめんなさい、見にくいんですけども、関連リンクという場所にこがねいデジタル平和資料館というところで、こちらからサイトに飛ぶことができますので、お時間あるときにぜひ見ていただければと思います。

以上になります。

【森田委員】 この間、読売新聞にも掲載されてましたね、インタビューされる様子は。

【田中委員長】 マスムラさんは講演会においでになっていましたね。協働講演会。

【事務局】 3月15日の発表会、1部と2部で発表会が行われまして、1部のほう

は参加してまいりました。今見た方と、15分くらいいて、あと語り部で参加して下さった方がかなりの人数、その場に出席していただいております、一人一人御紹介がありまして、ちょっと驚いたのが、今の方は91歳。やっぱり話して下さっている方は大体、少なくとも80は超えていらっしゃる、生まれたばかりではなくて、ある程度の年齢に行っていたからこそ、その当時のことを語れると思うと、大体、皆さん、90を超えていらっしゃる。皆さん、かなりお元気で、足腰、かくしゃくとされて、しゃべりもすごいかくしゃくとされていて、すごくお元気だなというのは、逆にちょっと印象としてはびっくりしました。でも、こういう形で映像にきちんと撮られて、見ても、すっと入りやすい動画という形に残って、平和の日の皆さんが頑張って編集して下さって、見やすい形に残ったのは市の財産になるかなと思っているところです。

以上です。

【田中委員長】 どうもありがとうございました。皆さん、何かコメント等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、次の次第の(2)に入らせていただきます。令和7年度実施協働事業提案制度の進捗について、事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局です。それでは、令和7年度実施の協働事業提案制度の進捗について御説明いたします。

次の資料2の小金井市提案型協働事業採択決定通知書を御覧ください。資料2-1の、まず、やさいじんさんです。やさいじん製作委員会における市民提案の採決結果になります。こちらは小金井市の経済課との協働事業となります。2年間の採択になります。推進委員の皆様にご指摘いただきました防災についての部分については、4の採択の内容にあるとおり、専門家の意見を聴きながら進めてくださいとしております。

次の資料の2-2を御覧ください。こちらはkikiさんですね。一般社団法人kikiにおける行政提案の採択結果になります。こちらは環境政策課及び生涯学習課との協働事業となります。kikiさんの「DOKI DOKI 妄想 こがねいヒストリー」も2か年の採択となります。審査で御指摘いただいております看板の耐久性がちょっと不安だという点については改めて検討をお願いしているところです。また、kikiさんについては、学校との事業については教育委員会との連携が必要になりますので、それについて、1年目から準備いただくように実施に向けて取り組んでもらいたいというふうに伝えてあります。

こちらの2つの事業については、団体及び事業担当課との打合せが終了し、協定書の内容を現在協議しているところでございます。

進捗については以上になります。

【田中委員長】 ありがとうございます。委員の皆さん、何か御質問、御意見等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。うまくいくといいですね。

そうしましたら、早いですね。最近、早い。早いときは早いほうがいいですけど。(3)その他に行かせていただきます。その他について事務局から御説明、お願いできますか。

【事務局】 それでは、事務局から3点ございます。

1点目の資料の3を御覧ください。こちらは第2回推進委員会でもお知らせしました小金井市の協働講演会です。令和7年1月18日に実施して、こちらも宮地楽器小ホールで行いました。約30名の方に御参加いただきました。今回、アンケートでもお配り

しておりますが、アンケートの結果をお時間があるときに御覧いただけたらと思います。

続きまして、2点目の資料4、NPO法人派遣研修についてです。こちらは毎年実施している市の職員の協働に関する研修で、今年度は34名を派遣しました。8団体のNPO法人さんに受け入れていただきまして、この研修の成果発表の場として1月21日に報告会を実施し、報告会の後半は、新しい試みとして、派遣された職員と受け入れていただいたNPO法人の方とグループになって、協働について一緒に考える機会というものをちょっと設けてみました。次年度についても、この協働の研修については継続したいと考えておりまして、NPO法人の方には御協力いただきたいというふうに考えております。

最後に3点目でございますが、資料5を御覧ください。つい最近なんですけれども、3月13日に、町田市地域活動サポートオフィスへ、コミュニティ文化課職員と準備室の2人と一緒に視察に行っていました。詳しい報告は改めますが、こちらに行ってみての感想についてなんですけれども、町田市のサポートオフィスの方が受け入れていただきまして、すごい熱心に説明を、我々もかなり根掘り葉掘りいっぱい聞いてきたところでございます。

一番心に残ったのが、町田市のサポートオフィスさんの立ち上がったのが比較的最近、2019年とのことです。例えば小金井市は準備室が立ち上がったのが平成21年、22年。そのくらいの時期に各市で市民協働に関わるいろいろな団体が設立されたり、市の中にコミュニティ文化課のような部署が設立されたりして動いてきたんですが、町田市においては、地域活動サポートオフィス、小金井市でいうところの活動支援センターのようなものができたのが2019年になってからだということで、ある意味後発だったと。ただ、後発であるがゆえの利点を生かそうということで、団体を立ち上げる前に有識者会議という形でかなり作り込みを行ったようなんです。そこで出た意見というのが、いわゆる施設の貸し館みたいなことはやめようと。貸し館の仕事はしないで、ひたすら支援に特化した、要するに、ソフト事業に特化しようということを最初からコンセプトに挙げてスタートした。ゆえに、職員の方がおっしゃっていたんですが、アウトリーチ等もかなりできていて、市民の中で何か団体を立ち上げたいというような動きがあったときに、初回が事務局を、こちらのサポートオフィスが最初の立ち上がりところで引き受けることによって団体をスタートさせるというような動きもできているというような話が非常に心に残ったところです。

あとは、100団体が参加するお祭りをされておりました、小金井市は、市民まつりのことがあったので、そこを根掘り葉掘り、私は聞いてきたんですけれども、こちらもサポートオフィスと市のカウンターパートである市民協働推進課とおっしゃったかな、がバックオフィスになって、実行委員会を立ち上げて、100団体から成る、いわゆるお祭りを開催している。そこに市のいろいろな課もブースを出しているのだけれども、ブースを出すに当たっては、必ずどこかの団体と組まなければ出させないという決まりにしておるようでして、そうすると、いろいろな課が、例えば自分たちの新しい事業を市民の方に広く知らせたい。お祭りぜひブースを出したい。それについてはどこか一緒に組んでくれる団体はありませんかという形で、組んでくれる団体を探して、その団体と組んでブースを出す。いろいろな試みをしているということで、市役所と市内の団体とで組むときの、まずは組んでみようという取っかかりとしてはいいところなのかなというふうに、話を伺っているところでした。

こちらのサポートオフィスさん、すごく頑張って、市との関係性もすごい良好だというような、双方からの証言がありましたので、いろいろ参考にさせていただきたいなと思っていますところですよ。

令和7年度の当初予算、議会も議決を経まして、我々が組んだ予算が認められたんですが、令和7年度に、我々の市民協働支援センターの再検討についての予算が可決されました。令和7年度と8年度の2か年をかけて、市庁舎が完成した暁にあそこに入るセンターでどういったところを担ってもらうかというのを、もう一度、既に準備室でやっていたらいいんですけども、そこから長い時間たつたので、再度、例えば町田のサポートオフィスさんが取り組まれているようなことで参考にできるようなことですか、小金井市独自の、今まではこうだったけど、これからはもっとこういうことも必要じゃないかということ、これは皆さんの御意見としてすごい伺いつつ、次の10年に堪えるというか、を備えた内容でセンターを立ち上げたいと思っておりますので、それに向けてのまずは最初のイメージづくりといいますか、必要な仕様書づくりを2か年かけて進めるつもりでこの事業を行いたいと思っております。

僅かですけど、支援していただける委託の予算が取れましたので、ぜひ皆さん、大船に乗ったつもりで参加していただくと、すごい楽しいことをいっぱい考えて、みんなで夢を膨らませて、それを形にできるといいなと、スタートにつなげられたらなと思っております。

以上です。

【田中委員長】 ありがとうございます。今、合わせて4点、御説明いただきましたが、何か御質問、御意見等はございますでしょうか。

私、たくさんありまして、講演会はどうも大変お世話になりました。ありがとうございます。ただ、2番目のNPO法人派遣研修の報告会について教えていただければと思うんですが、これは始まったのはいつからでしたっけ。最初、始まったのは。コロナの前から。

【事務局】 10年はやっています。私が平成23年に入庁したときに、私、これに行って、那永さんのところにお世話になっています。そのときにはやっていた。

【事務局】 でも、多分23です。私、22年なんですけど、やっていなかったです。

【田中委員長】 今、今年1月の報告会に行かれた若い方々というのは、研修期間はどのぐらい。短い方から長い方までいらっしゃる。

【事務局】 それぞれにあるんですけど、NPOさんにもよるんですけども、大体3日から5日ぐらいで組まれていることが多いかなと思います。

【田中委員長】 3日から5日ぐらいですか。ありがとうございます。

小金井市のNPO連絡会、NPOの人がいっぱい集まると思うんですが、それは多分、各市にもあると思うんです。今度、それが全国規模で、日本NPOセンターというのがありまして、そこではいろいろなところのNPO関係者が、例えばNPOと自治体との協働について、月1回、アンオフィシャルに集まって話をするような場があるんです。私、2月28日だったか、たまたま、私は別に講師でも何でもありませんが、1人の参加者として出かけていきました。全国レベルで40人とかそれぐらい参加者がいたと思うんですが、オンラインでグループ分けをして議論した中に、いろいろな種類のテーマがあったんですが、どこに行っても、自治体の人がNPOを知らなくて困るわねみたいな話がどの自治体からも出たんです。私、小金井市ではこういうことをやっていますよ

と言ったら、皆さん、すごい関心を持ってきて、それも1時間、2時間とか、1日じゃなくて、そんなに長く、1週間も行くんですかみたいな話をしていたら、すごく皆さん、びっくりされたんです。なので、ひょっとすると、こういうことはほかの自治体ではほとんどやってないということなんでしょうかね。

【事務局】 近隣だと国分寺市さんが1市やっているというのは聞いたことがあるんですけど、すごく最近、市民提案型か何かで提案いただいて、それがきっかけで始まったというのは聞いているんですけど、多分本当に数年だけですね。

【田中委員長】 なるほど。こういう試みをやっている自治体の中でも、ふだんの業務もいろいろ大変なので、もうちょっと縮小しようかなというところも出てきているというのが全国レベルのいろいろな市の方々のお話であったんです。そういう意味で、小金井市はぜひ続けていっていただきたいなと思うところです。

それから、先ほどのお話にもあったと思うんですが、こういったいろいろな行事があったときに、例えばこういった協働支援の対象になった団体が行事をやったときに、例えば市長さんがおいでになるとか、あるいは教育長さんがおいでになるとかというお話をちらっとしたら、それ自体、みんなほかの市の方がびっくりなさっていたところが多かったかなと思うんです。どの市でも協働支援の条例は、似たような条例がありますし、こういう会議はあるんですが、ちょっと私の辛口の言葉になるかもしれませんが、どの自治体も去年もやっていたからやるみたいな、一つの、変な言い方、ごめんね、市役所業務の定型化みたいなものになってしまっていて、去年もやったから、今年もやればいいみたいな感じでやっているところが結構出てきて、NPO側のほうが戸惑っちゃっている。つまり、どういうことかという、NPOの人は日々活動しているわけですが、市役所の人というのはやっぱり入れ替わりとかがあって、何年かたつと、そっくり替わっちゃう。そうすると、前からやっていたんだけど、お話をまた新しい人にもやって、事業を続けていくのがやっぱり大変ですねというお話が結構あったんですね。

そういう点で、小金井市の場合は、そういうふうに首長さん自身がすごく積極的だということはあるがたい。ですから、こういった協働支援事業が続くためには、もちろん条例があるし、委員会があることも重要なんですが、そういうふうに首長さんをはじめトップの方のそういった働きかけみたいなのはすごく大きいんじゃないかなというふうに、私自身、ほかの市の方の話を聞いて思ったところですから、ぜひ小金井市が自慢をして進めていっていただけると、ありがたいなと思っています。ありがとうございます。

最後の町田市のお話なんですけど、町田市、私、知識がないんですけども、小金井市のようなこういった市民協働推進事業、あるいは行政提案型でも構いませんし、あるいは団体育成型でも構わないですが、そういったことを何かやっつけたいらっしゃるんでしょうか。分かる範囲で教えてください。

【事務局】 協働提案という、そのような形ではなくて。

【事務局】 ホームページが、まず、とてもかわいいです。こんな感じでホームページができていて。

【事務局】 相談、コーディネート、各種講座・イベント。先ほど課長が言っていたのが、町田市の市民協働フェスティバルの「まちカフェ！」というイベントで、協働していれば何でもオーケーということで、何とか学校同窓会みたいな人たちでも協働していれば出られるということで、若干、市民まつりに近いような形でちょっとやられている。そこに協働の要素がすごく入っているというような感じですね。

【事務局】 先ほどハード機能はほとんどないよということだったんですけども、今、写真の右側にちょっと出ている、コーディネートというところにすごく机の形がふにゃふにゃとしていて、ちょっとおしゃれな空間があるんですけど、サポートオフィス自体は部屋を持たないんですけど、これが町田市役所の中にあるスペースだそうで、ガラス張りで机がふにゃふにゃとしたのが何個かあって、こういうワークショップなんかをできるようなスペースで、50人ぐらいが入るスペースを持っていらっしゃるということで、サポートオフィスさんがたまに講座とかをやる時はこちらを使っているということでした。これがまた、うちが協働支援センターというふうに言っている、予定しているものなんですけれども、小さな事務所と市民参画スペースというイベントができるようなスペースというのを今後持つ予定なので、ちょうど町田市さんが今展開している規模というのがすごく近いなというのと、三角スペースも予定ではガラス張りなので、イメージとしては、もしかしたらこんな感じになるかもしれないななんていうふうに思いながら見ておりました。

紹介はこんな感じで。

【事務局】 ソフト事業と言っていたのがこんな感じになりまして、チラシづくりとか、助成金、あとはそういう会議のファシリテーションをやってほしいみたいな依頼も受け付けています。事業計画と一緒に策定したりということもやってくれています。こんなに最初にいろいろやってしまったら、ずっとやってと言われませんかみたいなことは聞いたんですけど、しばらくしたら、お互いにできることを、これが私はできる、団体さんはこれができるよねというのをみんなで出し合う中で、自分たちができるペースというところをちょっと話し合いながら、自分たちのサポートを少しずつ減らして、団体さんが自立できるようにというのをやっているということでした。なので、何かやりたいと思った人たちを、最初は結構厚くサポートして、どんどん自分たちが抜けていくというのをすごくうまくされているようなお話をお聞きしました。

【事務局】 これはメニューとして有料。

【事務局】 ここですね。参考価格というところですね。

【事務局】 自立を促すために最初は金を取るみたいなことで。

【事務局】 そうですね。ちょっと今、お話にもありましたけど、最初すごく手厚く入ってくれるというお話だったんですけども、ちらっと、ここに「参考価格」と入っていますけど、ちょっとお金を頂いています。ワークショップとか、対談の進行なんかは2時間以内だったら1万円だよというような感じで、ちょっとお金ももらいつつやっております。

【西田委員】 ここで感想を言うんですけど、これが多分みそなんですよ。だから、無料で全部やってくれるということじゃないんですね。だから、手厚く最初はサポートするけど、ノウハウを自分たちでとっていってもらって自分たちで自立をしろというのがみそになっています。だから、何でもかんでも行政とか、行政の範囲内でやろうという枠組みになってないということがちょっと特徴として読み取れるかなと思っています。

【田中委員長】 ありがとうございます。

それで、サポートセンターが、多分仲立もなさってくれるんだと思うんですが、町田市とNPOとは具体的に何か協働事業をやっているんでしょうか。

【事務局】 町田市さんは、今ちょっとホームページで紹介してなかったんですけど、まちだづくり応援基金という基金を創設されていて、うちみたいな協働事業提案制度は

持ってないんですけれども、基金があって、御相談いただいた方と一緒に何かを始めるときにその基金が使えるというような制度は持っていらっしゃるので、何件か一緒にやっているような話も出てきてはいるようです。

【西田委員】 基金はどこがつくっている。

【事務局】 基金自体は、ここが支給と決定ができるようにつくられています。

【西田委員】 市で持っているわけじゃないんだよね。

【事務局】 そうですね。こちらで持っているものになります。

【田中委員長】 ありがとうございます。ほかに皆様いかがでしょう。

【事務局】 すみません。事務局です。

先ほど令和7年度の事業についての説明をしたんですけれども、さらにちょっと追加しまして、市民協働支援センターの再検討委員会が令和7年度、令和8年度の2か年をかけてやる予定で、これは債務負担で、2か年分の予算がとれているんですけれども、その後のさらに庁舎が建つまでの、一応、令和10年庁舎竣工予定ではあるので、そこまでの中期の予定のイメージなんですけれども、庁舎については、立ち上がったときには町田市さんの今みたいなイメージで、福祉会館と庁舎の交わるところのちょうど1階部分に、そういう市民の方に使っていただけるフリースペースといいますか、スペースができることと、その脇にセンターの事務局が入る予定で、これはもう既に設計図内に場所が確保されているものになります。

そこに入るまでの間なんですけれども、ちょうどコミュニティ文化課では、昨年度、開催できなくなってしまった市民まつりについて、どうしたらいいんだということずっとこの1年間考えておりました、市内のいろいろな団体さんにも当たってみたりしていたんですけれども、商工会さんが抜けてしまった後を継いで市民まつりを回すというのはなかなか難しいというような状況が見えてまいりまして、町田市さんで「まちカフェ！」というやり方をされているんですけれども、そもそも小金井市の市民まつりについて、立ち上がったときは市内でもすごく盛り上がって、市も盛り上がって、みんなが集まって楽しい祭りにしようといって始まったのは本当に昭和40何年、そこから50年間やってきたんですけど、最後のほうは、去年もやったから今年も同じ規模でみたいな形で、ちょっとマンネリではないですけれども、進めてしまったところ、事務局を担っていた商工会さんはコロナ禍で本来業務である商業者の支援というのもすごく重くなってきている中で、毎回同じことをやり続けるのは難しいということで、今、1回抜けられてしまったという状況も踏まえると、ここで今までと同じタイプのお祭りを再現しようとするにあまり意味がないだろうというふうに考えております。

そうすると、1回初心に戻るではないですけれども、市内でいろいろな人たちが集まってイベントをする目的って何だろうというところをもう一度考え直しての取組にするべきだというふうに考えていたんですが、市民の方がそれぞれいろいろな活動をされている中で、それらを1か所に集まることで、お互い交流するとか、あるいはこんな取組があったんだということを知るといようなきっかけにもなるし、あるいは今、活動してないけれど、市内にこんな活動があるんだということを知ってもらうきっかけにもなる。かつ、自分たちがふだんは活動してないけれど、この祭りに参加するためにグループをつくってみようかというような形で、いわゆる団体をつくっていくきっかけにもしてもらえるとというようなイメージを今後の市民まつりにはコミュニティ文化課としては持っておりまして、そうすると、市民協働支援センターの中心業務である中間支援の機

能とかなり似てくるというふうに思っております。

というところから、今後の市民まつりについて、市民協働支援センターの機能とかなり重複するところが出るだろうということをもって、市民まつりについても実行委員会形式は崩したくないと思っているんですが、市民協働支援センターでかなりサポートしていくような体制をつくりたいということも今考えておりますので、これを令和7年、8年のところで、ちょっと吟味した上で、実際に取り組めるかどうかを、令和10年を目的に動かしていってみたいというものが、今後5年間の中期的な目標でコミュニティ文化課は持っているところです。

【田中委員長】 ありがとうございます。せっかくです。今の、ニアフューチャーのこの5年間の見込みについて、今ならいろいろと。

【西田委員】 今はラフデザインなんです。だから、ラフなので、幾らでも修正できるので、この場を使ってという形でちょっと意見をもらいたいと思うんですけど、今日、締切りという話題じゃないんですけど、これからずっと付きまってくるので、5年間のうちに修正を加えながらよりよい形にしていきたいと思っておりますので、この話を正式に言ったのはこの場が初めてなのかな。

【事務局】 そうですね。この委員会に市民まつりを含めて、5か年のお話をしたのは今回が初めてです。協働支援センターの話は前もちょっとしたんですけど、予算も決まって、かつ令和7年、8年の予算はとれているんですけど、令和10年に向かったの予算はこれからとるので、本当に我々がアイデアとして持っている。予算獲得に向けて頑張りたいと。

【西田委員】 御協力をお願いしたいと思っておりますので、本当に気がついたことがあったのであれば、本当にお寄せいただきたいんです。こういうふうにしたほうがいいのか、こういう考え方もあるんじゃないとか、ちょっと小さいことでもいいので、これからつくるので、なるべくみんなの意見を入れていきたいなと思っておりますので、多分、議会でもここまでつなげて話したということは多分ないんです。今日が本邦初公開ということで、ラフスケッチなんですけど、公開したことなんですけど、ちょっとお考えいただければと思っていますということでもいいんですね。

【田中委員長】 一番最後の市民まつりはいつ頃だったか覚えていますか。

【事務局】 令和5年度でした。

【西田委員】 10月にやっていたんです。秋ということで。季節もいいので、春は桜まつりがありますので、時期をずらすということもありますので、秋にしていたんですけど、秋もそこそこと事業があったんです。このほかにも、農業祭、農業まつり、今、産業まつりに変わっていますが、そういう商工業の部門と一緒にやってるお祭りがあるんですけど、それとの絡みとか、市民部開催という、宮地楽器ホールを主に使ってやっている催物がありますので、その絡みも含めて考えないといけなくなってきちゃっているんで、秋にやるかどうかも含めて、今、本当に季節も含めて、これからという状態です。

【田中委員長】 どうぞお願いします。

【森田委員】 去年の秋ぐらいに山梨県の韮崎市にある青少年育成プラザ、ミアキスという、観光協会のメンバーと一緒に見てきたんです。中高生たち、大学生なんかも、たくさん来ていて、スタッフなんかもみんな若い。面白いなと思ったのは、ミアキスは地下にあって、1階は委託を受けているパン屋さんとお土産さんがやっていたんです

けども、明らかに全く違うんです。地下のミアキスのほうはそういった若い人たち、やろうやろうと盛り上がり、持ち上がってできたものと、1階のそういう、これこれこういうことをするのでお願いしますと委託を受けて行っているというの、色合いも違うというか。何となくお祭り、市民、やりたいよねというところから、何かたきつけて、いろいろな仕掛けを細々とつくって行って、その集大成がお祭りというふうに結びついたらいいですね。秋ぐらいにお祭りをやらなければならないとかなっていくと、何かどんと気持ちが。

【森田委員】　そうですね。そのときに観光協会のメンバーと見に行ったんですけども、大熊教育長がまずミアキスを見に行きたいと言っていて、くっついて見に行ったんです。大熊さんも、最後、帰りに若者たちのためにああいう場をつくってあげたいと言ったんです。でも、あげたいというところがやっぱり引がかかって、あげたいんじゃないくて、それを子供たちが、つくりたいよ、つくろうぜで、大人がそこに引っ張られていくというほうがやっぱりいいよね。つくってもらったり、祭りというものが設定されたりすると、途端につまらなくなるから、それをまず考えていきたいよねという話をしていたので、細かい仕掛けがずっとこの5年の中でもいっぱいちりばめられていたら、いいですね。

【森田委員】　この間うちの地域食堂のときに、私、ちょうど始めるときに、ぎっくり腰になってしまって全く動けなくなって、集合、今日、私は何もできませんからと言ったときに、小中高大学生たちが、ぱっと、それでもやりたいから、じゃ、俺らでやろうぜと、ちゃんと役割分担もみんなでし合って、準備して、上の子たちが小さい子たちの世話をしながら、セッティングを始めて、料理もし始めたんです。それは、でも、やっぱり、地域食堂をやり始めてもう10年になるんですけど、日々の積み重ねがあって、見ているからこそ、自分たちでもやりたいなという気持ちが盛り上がりくるというのかな。もしこちらが、何月何日やります、こういうことをしますというふうになったら、ここまで動かないだろうなという。同時に、その積み重ねも意識しつつ、先ほど何でもかんでもやってあげるんじゃないくて、最初はやったけど、でも、参加する人たちのやりたいという気持ち同士がつながり合って、そこに集大成となるというのと全く何事も同じだなとつくづく思うんですが、子供も大人もきっとそういう気持ちってそうですね。

【西田委員】　年号なんだよな。7、8、9、10と4年間、熟成期間があるので、そのことも含めて、何か考える時間があるかなという。

【田中委員長】　森田委員の先ほどの話、地下、1階とのイメージの違い、何かそれを結びつけるようなものはないですか。階段を上ると全然世界が違う。

【森田委員】　階段があるだけなんです。でも、階段を下りていく。がらっと何か違うんです。多分、地下のミアキスの場合はデザイナーがうんと入っているんです。だから、例えばその日も行って、お土産にもらったのはルービックキューブであったり、6面を使って、菫崎の宣伝をした六面体になっているんですね。1回ばらばらにしちゃうと分からない。その1面はQRコードになっていたりとか、そういう一つ一つのデザインとか、あと壁の色も赤だったり、ガラス張りだったり、すごくポップという感じがして、1階に上がると、全然ポップじゃない。全然楽しくないんですね。

【西田委員】　まあ、イメージは分かります。

【森田委員】　分かりますか。

【西田委員】 おっしゃっているイメージは分かる。役所に勤めて長いので。何か決まったことを決まったようにするという。

【森田委員】 お土産とかも、可もなく不可もなく、きちんと並べられている感じが、逆につまらない。

【森田委員】 きっとほかのところも同じだろうな。でも、地下のところに行ったのは、ここにしかないだろうな。独自で、渋谷区とも若者センターと連携をとっているんですね。お互い行き来しているみたいなんですけど。

面白いのは、それをきっかけに、ミアキスは駅前にどんとあるんですね。駅前の建物の地下に入っていて、その周辺にだんだんと帰ってきている人たちがいて、空き家とかで飲み屋さんを始めたり、その周りにでき始めているお店がまた面白いんです。それがじわっと伸びていっている感じがして、次、また1年後に来て楽しみだなと思わせるまちづくりの感じ。

【田中委員長】 新しくお店をつくったりしたというのはどういう人ですか。Uターンしてきた人ですか。Iターンの人ですか。

【森田委員】 Uターン。そうですね。Iターンの人もあるなんて言ってはいましたね。

【田中委員長】 御承知のように、山梨県は人口がすごく少ないんです。60万人ぐらいでしたっけ。70万とかでしょう。すごく少ないんです。ちょっと前ですけど、どういう人がNPOをやっているかという、地元の人はいあまりNPOをやっていないんです。

【森田委員】 そうですね。外から。

【田中委員長】 外から来た人。あるいは若いとき、大学生で東京へ行って帰ってきた人とか、あるいは結婚を機に山梨県に住むようになった人が一生懸命NPOをやっているんですよ。そういう特徴もあるので、多分お店なんかもそういう人が結構つくっている。外からの刺激みたいなものがあって、それをちゃんと受け入れる。ちゃんと場もあるというか。

【森田委員】 そうですね。

【田中委員長】 活動する場、できる場がないと活動できないからと思うので、非常に興味深いことかなと思うんです。ぜひ今度、韮崎市のほうに行かないと。

【西田委員】 旅費が。

【事務局】 韮崎はすぐ近いです。個人的に韮崎はよく行ってたんです。そんなことになっているんだ。最近行ってなくて、そんなことになっているとは驚きました。

【森田委員】 本当に駅前です。

【田中委員長】 大変興味深いお話ありがとうございます。

邦永委員、いかがですか。今後のニアフューチャーに向けての新センターの在り方、いろいろなこと。

【邦永委員】 今日伺った町田市のビジョン、バリュー、ミッションという、つくり込みが何かわくわくするような気持ちにさせられました。これから小金井がつくっていく協働センター、支援センターもこうあってほしいなという気持ちでお話を聞いていました。

ただ、祭りについては、非常に難しいなと思うのは、やっぱり大ききさってあるよなと思って。大きくやっていただけに。同じものを目指すというのはすごく無理がある。こ

の市民協働フェスティバル「まちカフェ！」に、大きさは違うけど、似ているかなと思ったのは、この間、子育て・子育て支援ネットワーク協議会で交流会を開いたんですけど、子育てメッセというのを開いたんですけど、その中で、地域の活動したい、活動しているような人たちを北と南とか、4か所に分けて、今年はこっちとかという形で2か所の人たち、グループを。結構な人が来て交流したときに、面白いグループの中で、じゃ、私、行ってみようかしらとか、私、行ってみようかしらとか、そのときに初めてこういう場に参加したという奥様がいたときに、ここはいいですね、何々やりたいと言ったときに、「いいじゃない」「やってみたらいいじゃない」という、その声がPTAとかだと、「え、でもね」とか、「えっ」という、引き戻されることばかりがわっと来て、やりたい、どうやったらできるという夢の部分と、あと現実はどう乗り越えていくかというアドバイスが全然聞けないまま、しょぼんとなっちゃうけど、ここに来て、今こんなことをやってみたいと思っているんですと言ったら、こういうふうにしたらもっとできるよとか、そういう話ができただよねと。これはそのままセンターの仕事じゃんとか、ちょっと思いながら、その場にいたとき。こうやってつなげたり、支えたりとか、立ち上げの支援をしたりというのは、地域のいろいろなところでできるというのものもあるんだよなと思って話を聞いていました。

【森田委員】 去年、夏祭り、どこも盆踊り、小金井市で盛り上がりましたね。本当の祭りウイークにして、結構はしごしている人たちがいたんですよ。

【邦永委員】 大きく1個じゃなくても。

【森田委員】 じゃなくて、そこは梶野町とも、色合いが貫井とも全然違うから、例えば5日間を盆踊りウイークにして、はしごする人たち。それ全体をまとめて小金井市まつりみたいにしてしまうと動きやすいものね。それが一つの大きな盆踊り大会とかになると、途端に大変になったりしがちだけどね。

【邦永委員】 それこそ顔の見える交流みたいなのがこれから必要だったり、防災の面でも。そうしたときに、もっと地域地域でやろうというのがあってもいい。

【森田委員】 貫井も貫井ばやしが何といたって強いから、梶野とかから来た人とかは、こうやってやっているんだって。メインで、物すごい盛り上がりようなんです。また、貫井の人が緑町のほうに行ったときの、こういうふうになるんだなと、分かり合おうと面白い。

【邦永委員】 面白いでしょうね。地域性とかあって。

【森田委員】 同じ小金井で。

【西田委員】 経済課では、みちくさ市とか、地域地域にクラインガルテンという発想がありますでしょう。庭先というか、庭先販売から端を発しているのかもしれないんですけど、小さな単位で、道草を食っているような距離感で、何かイベントをやっているということを、今、観光まちおこし協会というのがあるんですけど、その場でやっていることはやっているんですよ。

【森田委員】 うちもけやきは私担当なので。

【西田委員】 ありがとうございます。自立し始めているんです。市が何かやってさしあげるといふ段階を終えてしまって、みんなでやろうという。みんなでやろうという中に地元の人が企画運営をしているということで、その友達とか、近所の人に来て、その仲間に入るということの実践をしていますね。

【森田委員】 4つの拠点でとどまる人と動く人というふうに分けているんです。私

は貫井の南のけやき公園でとどまる人なんです。この間、それも話になって面白かったのが、そういうとどまってるさいおばちゃんがいるかどうかで、結構、そこでできるかできないかは決まるという話になって、もう一つ、あそこのお寺でもやっているみちくさ市も、やっぱりそのお寺さんが中心になって、おばちゃんがああだこうだ言っているみたいなんですよ。

【西田委員】 おばちゃんがキーワード。確かに本当なんです。時代が変わって、うるさいおばちゃん、いい意味でうるさいおばちゃんがいなくなっちゃったんですね。それで、おせっかいなんだけど、この人に聞けば大概のことを知っているとか、地域に紹介してあげますよというおせっかいな人がいなくなっちゃったというのが、このばらばらの状態になっているので、その役割は誰かにしてもらおうというよりは、自然発生的に、昔、餓鬼大将がいたように、まとめ役というのが本当に地域地域にいるはずなんです。必ずいるので、その発掘、発掘って遺跡じゃないので。

【森田委員】 まあ、遺跡みたいなものですね。

【西田委員】 その人が何か中心にというか、まとめ役になってやってくださるというのが、だから、ちょっと時間はかかるかもしれないんですけど、そういう芽吹きというのを見て、4年間、今言われたこと、総合というか、ちょっと顧みていますが、本当にそういう人たちも混ざって、新しい祭りを本当に大規模ということになると、誰かがしなきゃいけなくなって、ここまでがそうだったんです。規模が大きくなり過ぎて、子供部門とか、福祉部門とか、商業部門とか、うわっとなっちゃって、食べられる、専門的な人が必要になっちゃって、商工会にお願いするということになっちゃったんですね。それで、専門的にやってくださるのはいいんだけど、お任せになっちゃうんです、こういうことをしていると。何年もちょっとマンネリのように、その人がやってくださるんだろうと思って、みんなが参加意識というのが、自分がつくるというよりはお客さんになっちゃっているんですね。だから、何か提供しろという立場になっちゃって、桜まつりもそうだったんですけど、じゃ、やろうというときに、どうやっていいか分からない。ノウハウも受け継いでない。やる人が、私、面倒くさいから誰かがやってくれるといいんだけどという、そういう話になっちゃって、瓦解するんです。瓦解するというか、破裂しちゃう、まとまらないという話になっちゃうので、そういうおせっかいを見つけて、ここでやろうよという。

【森田委員】 住んでいる、この町内会、町内会の会長さんともやり取りを密にとるんですね。なので、巻き込むときにも観光協会や経済課がぱっと来て、何かというよりは、むしろ、経済課や観光協会の方に町内会の会長さんに、ちょっとすみません、挨拶に頭を下げてもらえませんかと言って紹介したんです。そうすると、その町内会の人たち、自分たちの住んでいる、そこに住んでいる人たちだから、やっぱり顔なじみになったりとか、あと小学校も今入ってきているんです。校長先生とかも来ているので、チラシとかをつくると、小学校の子供たちを写すと、学校とかに貼ってくれるんですよ。DJとかも入るんですが、DJが貫井南の郵便局員だったりとか、みんないろいろなものを、来ていた人たちがむしろやりたがるんですね。やってと言わなくても、こちら側に回ってくるというのがみそですよ。

【西田委員】 面白いからと言って混ざってくる人がいますね。

【森田委員】 そうですね。

【西田委員】 面白そうだからと。何か上から押しつけるんじゃないで、自分たちで

何かやれるみたいよということにいる人がいるので、本当にちょっとこのところの提案型協働事業の採択を見ていると、このところは既成の団体が何かやるというよりは、やさいじんもそうですし、kiki もそうですし、自分たちが集まって何かやろうというときに見つけた制度ということで、それが採択されるという、ちょっと節目、潮目が変わってきているように思うんですね。コロナ前はそんなことがなかったんですね。頼んで、そこに応募してくれないかなとか、声をかけて、「いや、ちょっと面倒なんだけど、やってみるか」とかというきっかけで入ってきた人が多かったんだろうけど、このところ、ちょっと潮目が変わったなという感覚も持っていますので、これからが楽しみというか。

【森田委員】 そうですね。

【西田委員】 お任せ民主主義じゃなくて、自分たちでつくり上げる民主主義がようやく実現できる。

【森田委員】 その姿って子供は本当によく見えています。

【西田委員】 こども縁日とか。

【森田委員】 子供は子供でよく見ている。

【西田委員】 大人が子供のことを潰したらいけないし。そういうことですよ、多分。

【田中委員長】 それでは、取りあえずそんなものでよろしいでしょうかね。今後5年間のことにつきましては、NPOの人にいろいろとアイデアを出していただければいいなと思っていますところですよ。

【田中委員長】 それでは、委員の皆様、何かありますか。もしないようでしたら、これにて本日の会議を終了したいと思います。

皆様、本日はどうもありがとうございました。

— 了 —